

動画配信  <b>4</b>	<b>「健康長寿のまち」普及啓発向上に向けた分かりやすい広報戦略 地域づくりのサービスデザインを考える</b>
----------------------	---

※本事業は令和4年度 しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業の採択を受けて実施しました。

事業担当者

造形学部造形学科 教授 安武伸朗（代表）

造形学部学生（野本七海、鈴木彩音、今井悠里、金子ゆり、池谷颯馬）

目的・概要

少子高齢化社会が到来する日本において、地域包括ケアシステム構築の重要性は増す一方である。静岡市は保健福祉長寿局に地域包括ケア推進本部を有し、包括ケアセンターはじめ多様な組織と共に企画・調整を行うとともにまちづくり計画を推進している。

本プロジェクトでは、社会全体の DX を背景とした、市民自らが主体的に地域社会に関わっていくためのデジタルネットワークのあり方を探求するとともに、静岡市の情報発信サイト「まるけあ」という Web ページで市民と行政がともに課題やビジョンを共有できるような広報戦略を考案する。

学生はサイト構造の調査、同サイトの利用調査や包括ケアへの期待度調査、包括センターへの聞き取りや専門書による文献調査などを行なった。その結果、運営企業と協働して可能な範囲での広報機能改善を行い実装に至った。また市民による主体的な活動を誘うには至らないものの、市民に対して地域包括ケアの概念や施策が自分ごととして認知できるような広報ツールの企画と制作、ならびに“かけこまち七間町”に焦点を絞った広報用の映像提案を行なった。また研究課題として、市民が地域ごとに助けあう姿をカスタマージャーニーマップの手法を活用して提案し、今後の静岡市の包括ケアを検討する視点を共有した。

事業成果

Web や印刷物に掲載するコンテンツ開発を継続したことで、新年度からの Web ページにおいて、市民が“かけこまち七間町”の利用しやすくなるであろうことが直近の成果と考える。

学生一同、包括ケアや行政 DX の専門書を読み解いた結果、父母や祖父母の生活世界を踏まえて、70 代を対象とした場合でも、スマートフォンを前提としたオンラインでおよその知識や具体的なアクションを支援してくれる一括サービスの必要性を強く訴えていることから、理想的な地域包括ケアシステムのあり方について未来像を考案した。行政職員と共有し、今後のオンラインサービスについて議論の種として活用できた。